

## Ⅱ 調査の結果

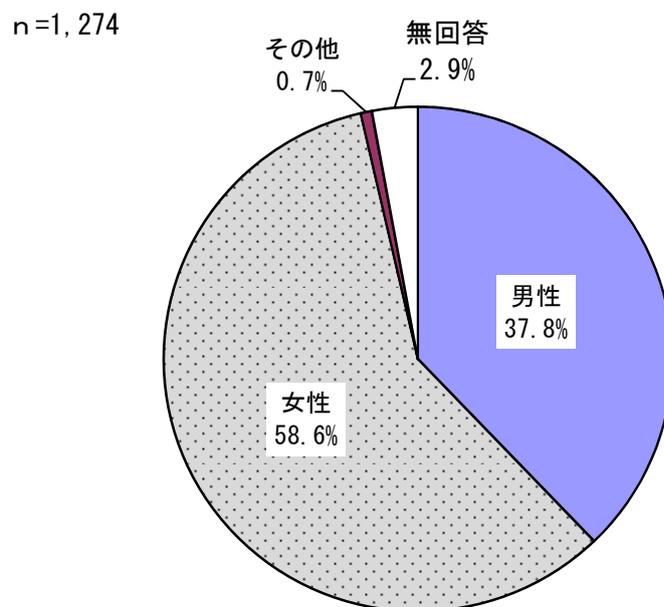


## II 調査の結果

### 1 回答者の属性

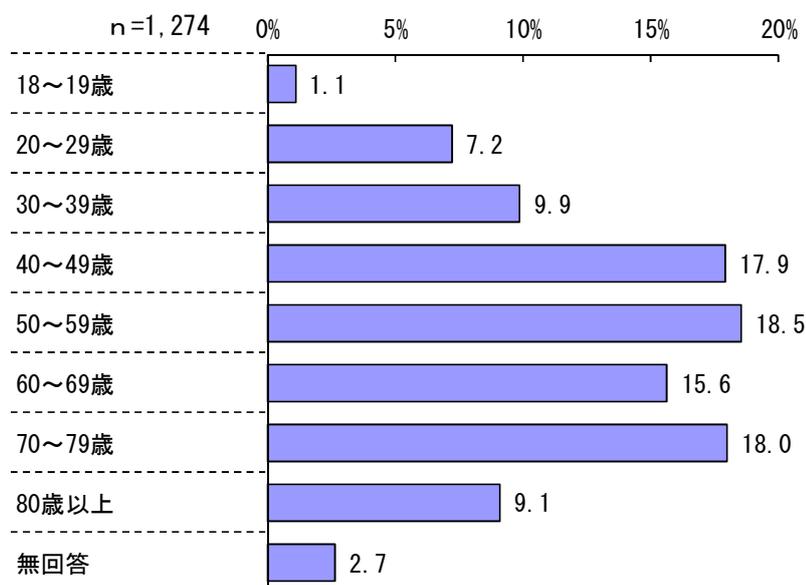
#### (1) 性別

○「男性」が37.8%、「女性」が58.6%となっており、「女性」が「男性」を20.8ポイント上回っています。また、「その他」は0.7%となっています。



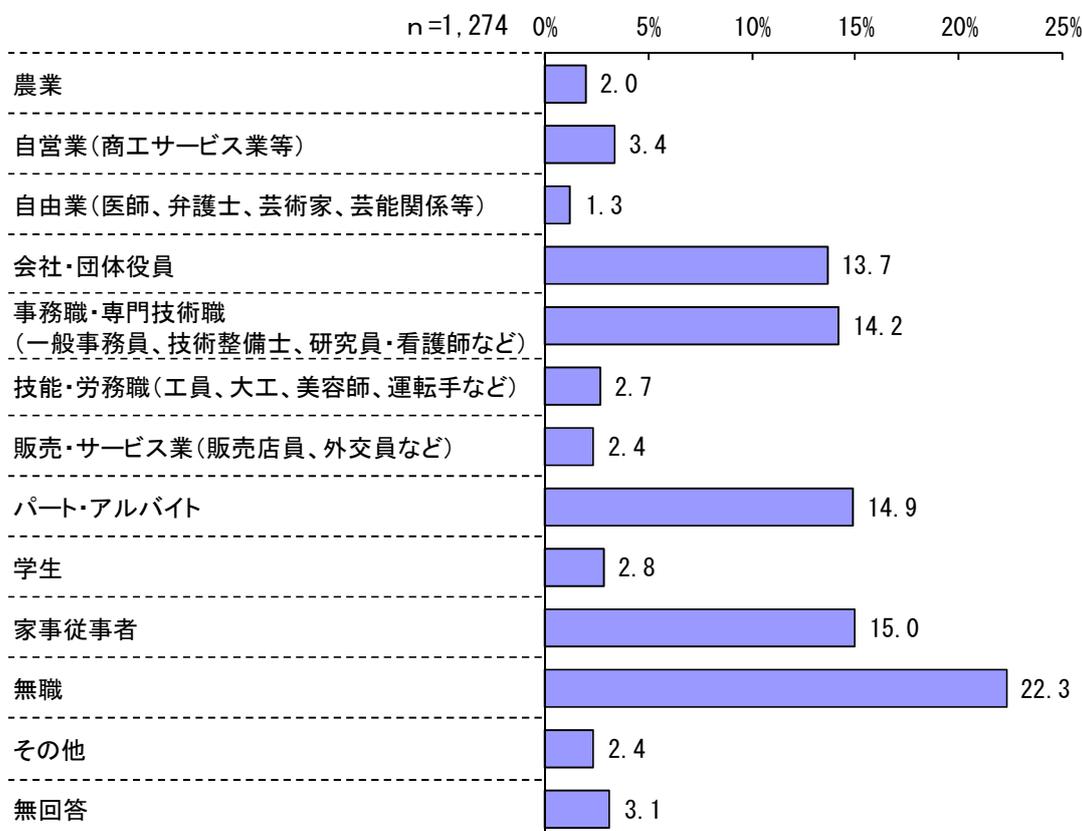
#### (2) 年齢

○「50～59歳」が18.5%で最も高く、次いで「70～79歳」(18.0%)、「40～49歳」(17.9%)の順となっています。また、60歳以上の回答者は全体の4割を超える結果となっています。



(3) 職業

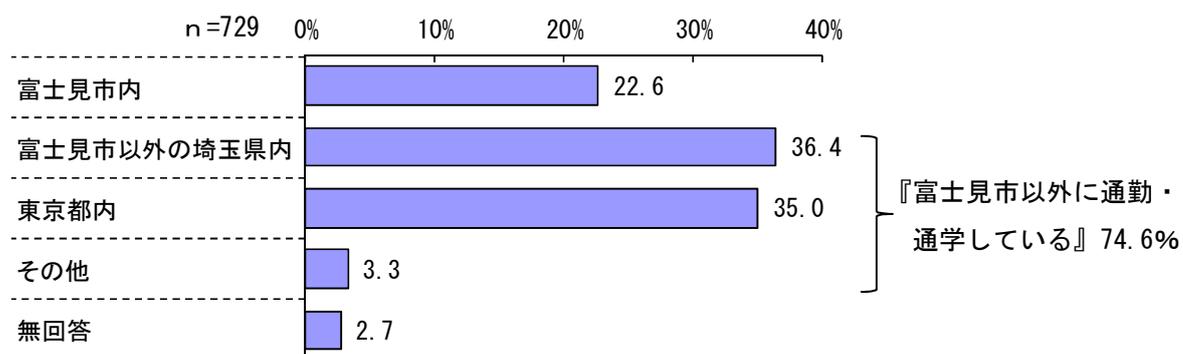
○「無職」が22.3%と最も高く、次いで「家事従事者」(15.0%)、「パート・アルバイト」(14.9%)、「事務職・専門技術職」(14.2%)、「会社・団体役員」(13.7%)の順となっています。



(4) 通勤・通学先

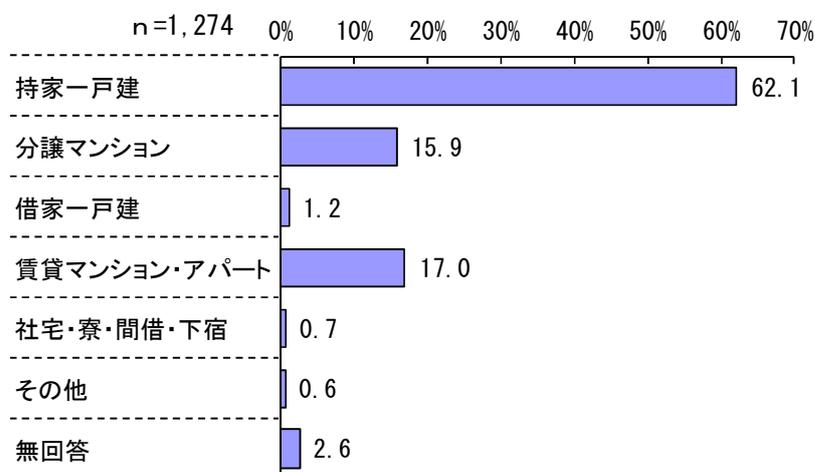
○「富士見市以外の埼玉県内」が36.4%で最も高く、次いで「東京都内」(35.0%)、「富士見市内」(22.6%)の順となっています。

○「富士見市以外の埼玉県内」、「東京都内」、「その他」を合わせた『富士見市以外に通勤・通学している』回答者は、全体の74.6%となっています。



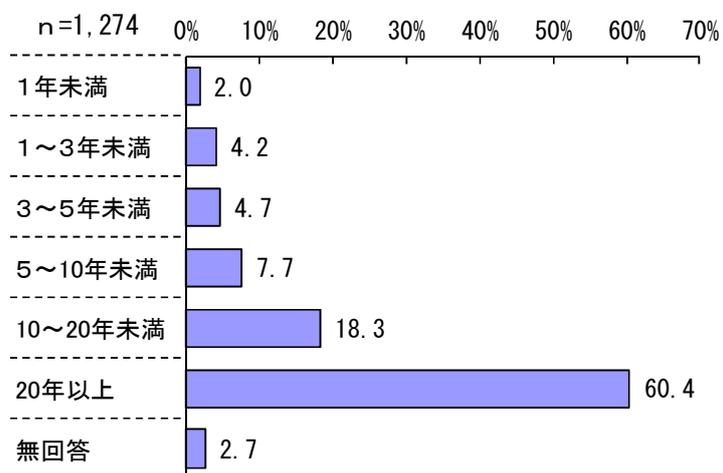
### (5) 住居形態

○「持家一戸建」が62.1%と最も高く、次いで「賃貸マンション・アパート」(17.0%)、「分譲マンション」(15.9%)の順となっています。



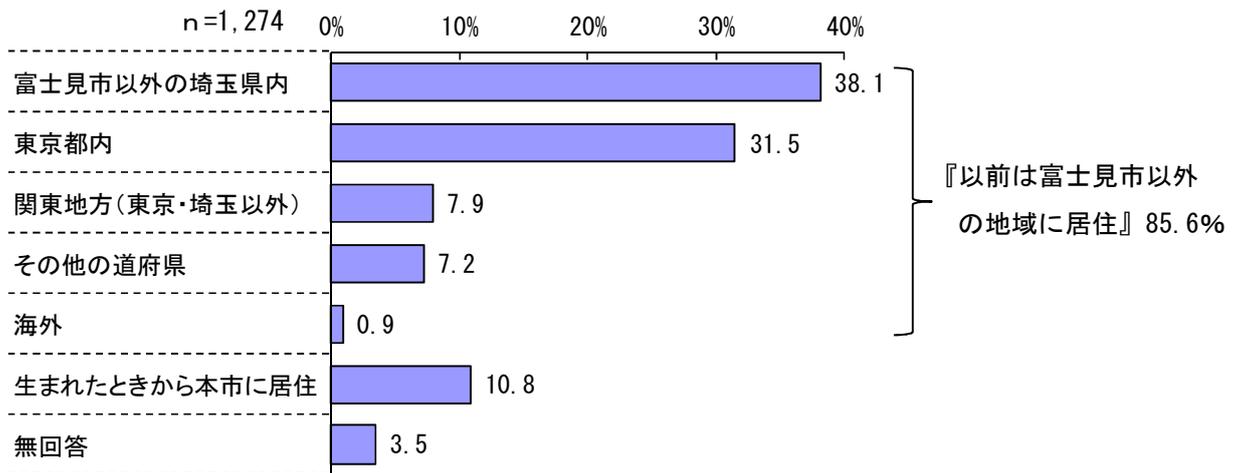
### (6) 居住年数

○「20年以上」が60.4%と最も高く、次いで「10～20年未満」(18.3%)、「5～10年未満」(7.7%)の順となっています。



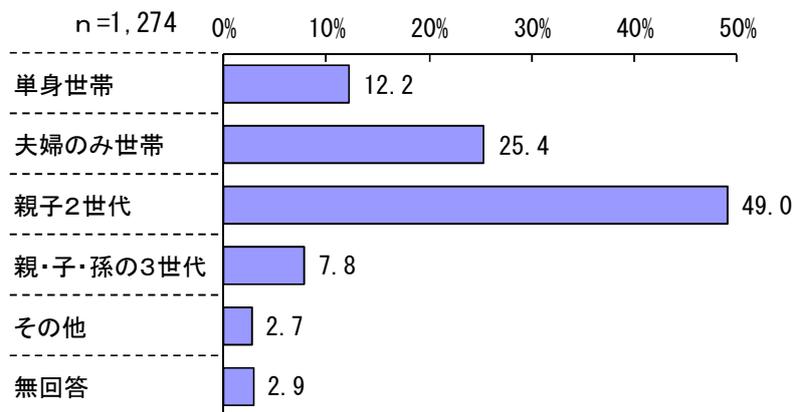
(7) 以前の居住地

- 「富士見市以外の埼玉県内」が38.1%と最も高く、次いで「東京都内」(31.5%)、「生まれたときから本市に居住」(10.8%)の順となっています。
- 「富士見市以外の埼玉県内」、「東京都内」、「関東地方(東京・埼玉以外)」、「その他の道府県」、「海外」を合わせた『以前は富士見市以外の地域に居住』していた回答者は、全体の85.6%となっています。



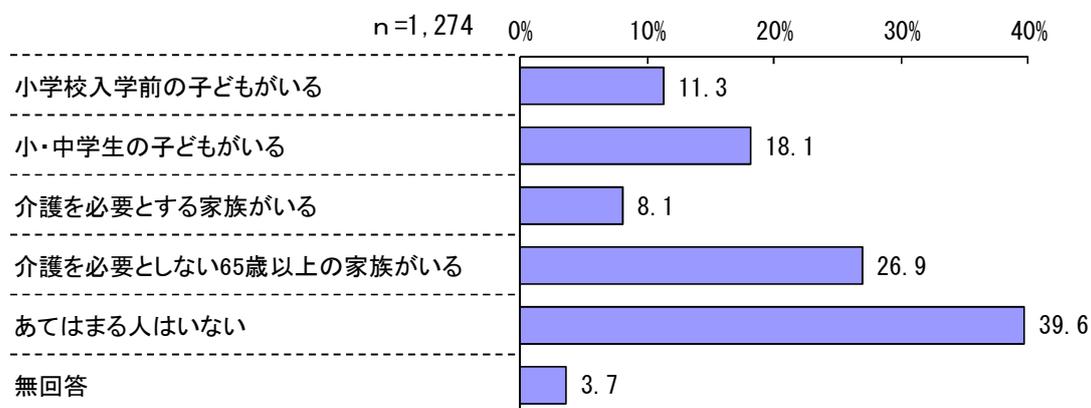
(8) 家族構成

- 「親子2世代」が49.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」(25.4%)、「単身世帯」(12.2%)の順となっています。

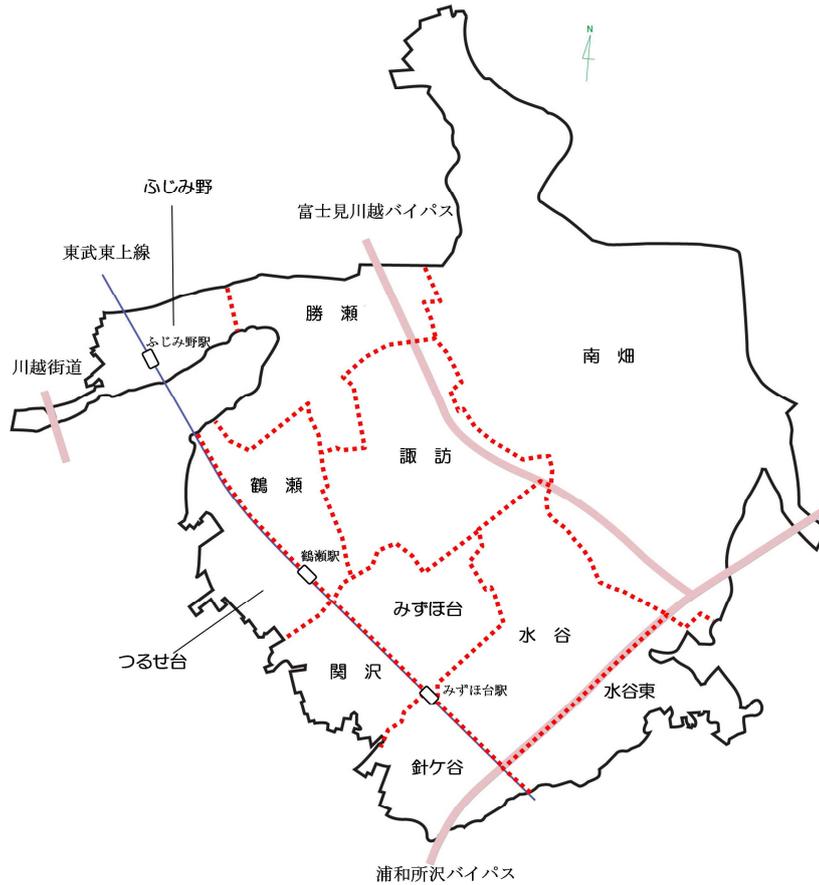


## (9) 子どもや高齢者の同居有無（複数回答）

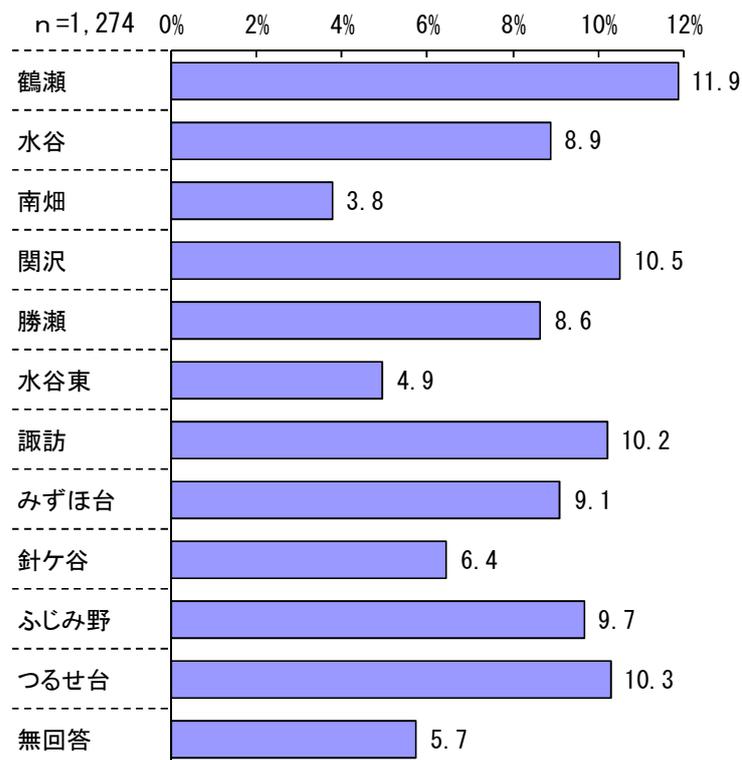
○「あてはまる人はいない（子どもや高齢者、要介護者はいない）」が39.6%と最も高く、次いで「介護を必要としない65歳以上の家族がいる」(26.9%)、「小・中学生の子どもがいる」(18.1%)の順となっています。



(10) 居住地域（小学校区）



○「鶴瀨」が11.9%と最も高く、次いで「関沢」(10.5%)、「つるせ台」(10.3%)、「諏訪」(10.2%)の順となっています。



## 2 定住に関する意識

### (1) 現在の住みごころ (問1)

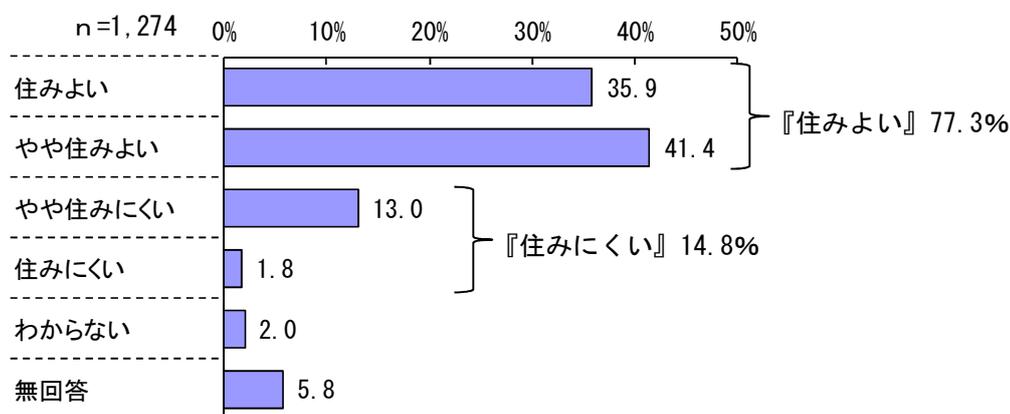
◇『住みよい』は77.3%となっています

○富士見市での現在の住みごころを聞いたところ、「住みよい」(35.9%)と「やや住みよい」(41.4%)を合わせた『住みよい』は77.3%となっています。

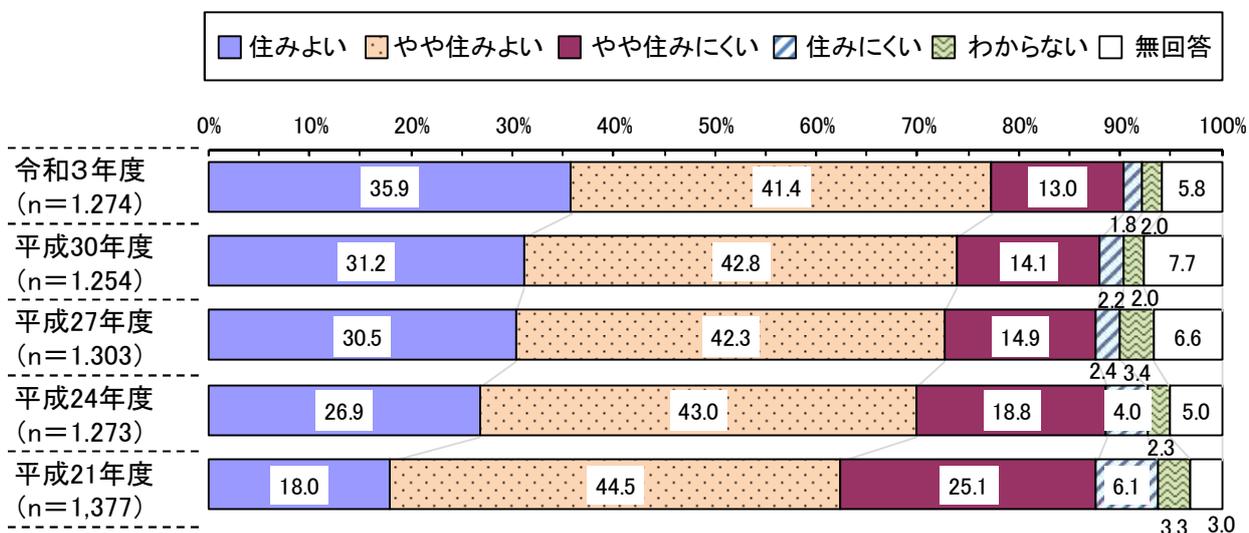
一方、「やや住みにくい」(13.0%)と「住みにくい」(1.8%)を合わせた『住みにくい』は14.8%となっており、『住みよい』が『住みにくい』を62.5ポイント上回っています。

○現在の住みごころを過去の調査と比較すると、『住みよい』は平成21年度以降増加傾向にあり、前回調査と比べると3.3ポイント増加しています。

#### ■現在の住みごころ

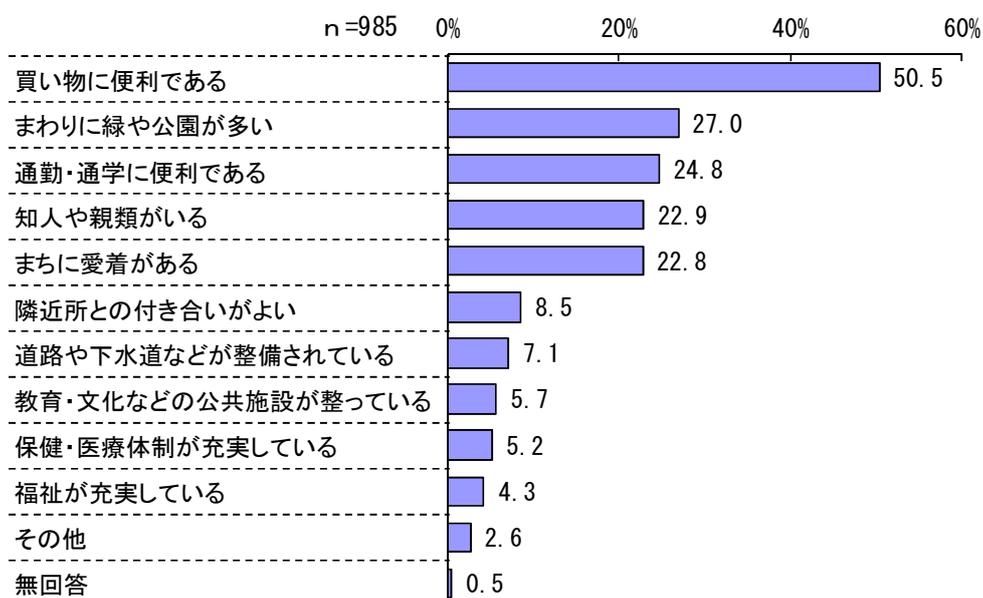


#### ■現在の住みごころ一経年変化

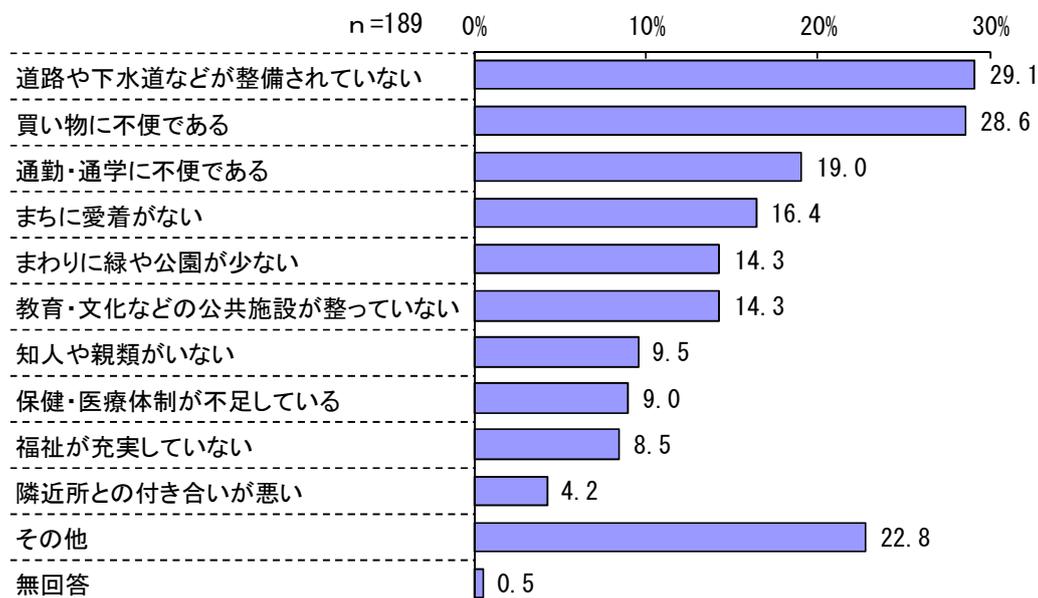


- 『住みよい』と答えた理由を聞いたところ、「買い物に便利である」が50.5%と最も高く、次いで「まわりに緑や公園が多い」(27.0%)、「通勤・通学に便利である」(24.8%)の順となっています。
- 『住みにくい』と答えた理由を聞いたところ、「道路や下水道などが整備されていない」が29.1%と最も高く、次いで「買い物に不便である」(28.6%)、「通勤・通学に不便である」(19.0%)の順となっています。

■住みよい理由（2つまでの複数回答）

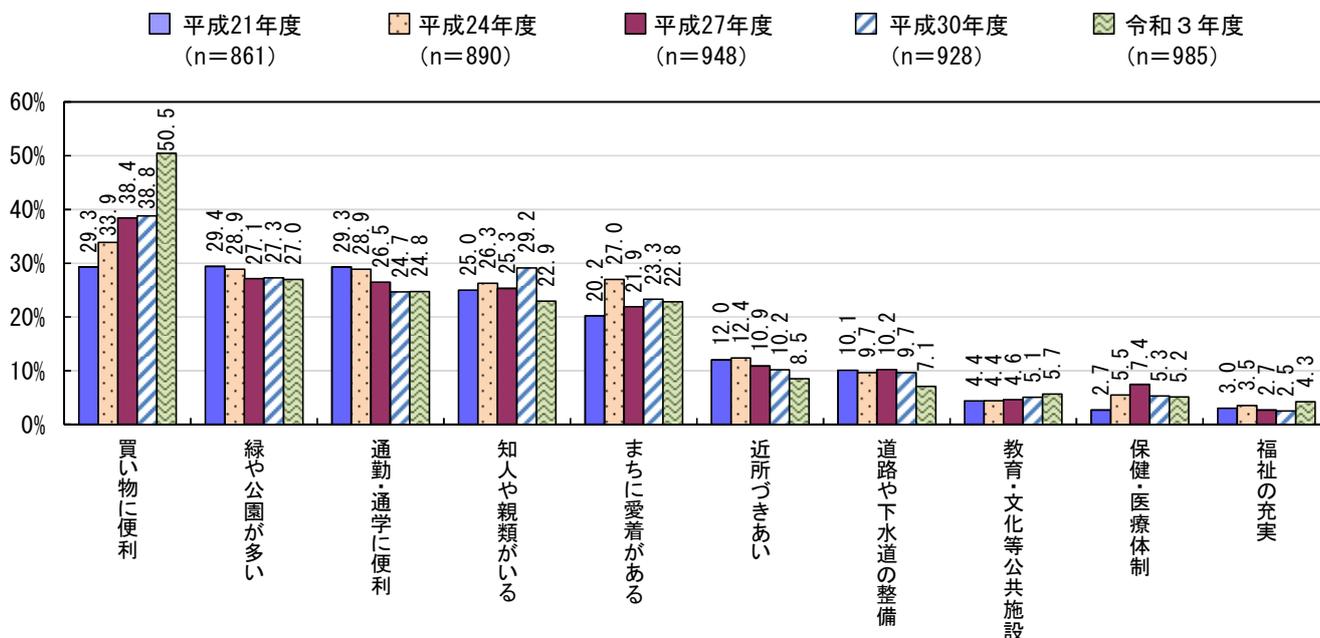


■住みにくい理由（2つまでの複数回答）



○住みよい理由を過去の調査と比較すると、「買い物に便利である」は前回調査から11.7ポイント（38.8%→50.5%）増加しており、平成24年度以降、第1位を維持しています。  
 また、「知人や親類がいる」は前回調査から6.3ポイント（29.2%→22.9%）の減少となっています。

■住みよい理由—経年変化



■住みよい理由—経年変化（割合の高い順）

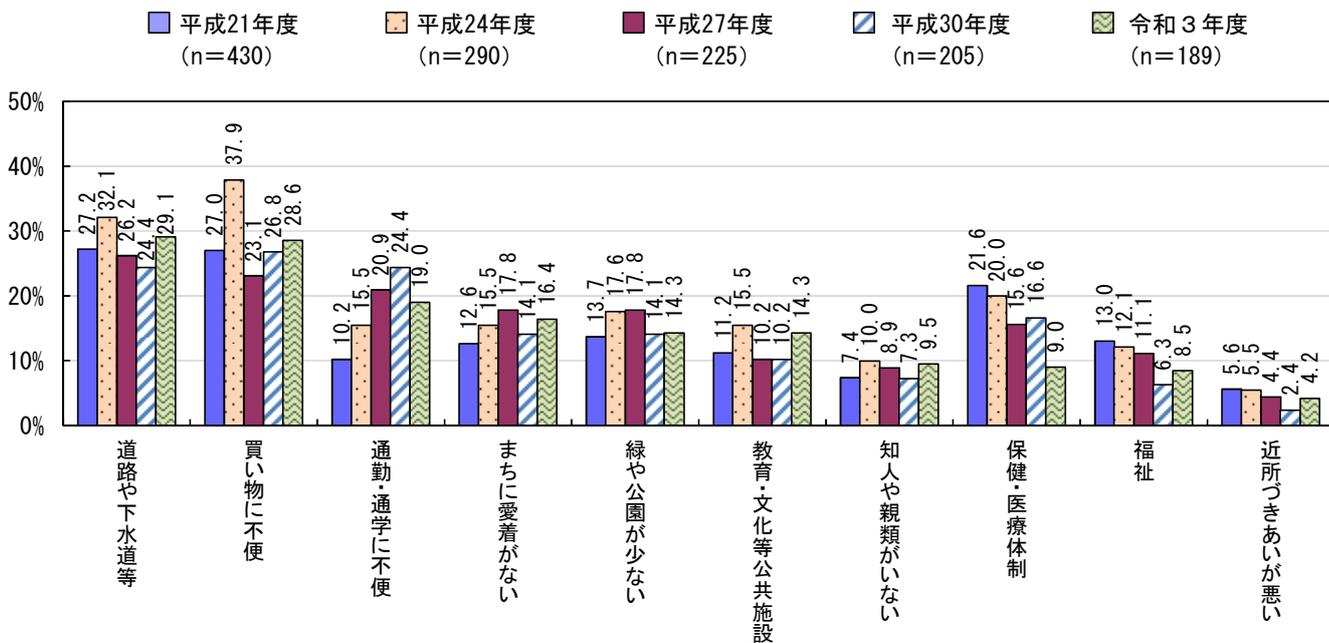
平成21年度 (n=861)	平成24年度 (n=890)	平成27年度 (n=948)	平成30年度 (n=928)	令和3年度 (n=985)
緑や公園が多い 29.4	買い物に便利 33.9	買い物に便利 38.4	買い物に便利 38.8	買い物に便利 50.5
買い物に便利 29.3	緑や公園が多い 28.9	緑や公園が多い 27.1	知人や親類がいる 29.2	緑や公園が多い 27.0
通勤・通学に便利 29.3	通勤・通学に便利 28.9	通勤・通学に便利 26.5	緑や公園が多い 27.3	通勤・通学に便利 24.8
知人や親類がいる 25.0	まちに愛着がある 27.0	知人や親類がいる 25.3	通勤・通学に便利 24.7	知人や親類がいる 22.9
まちに愛着がある 20.2	知人や親類がいる 26.3	まちに愛着がある 21.9	まちに愛着がある 23.3	まちに愛着がある 22.8
近所づきあい 12.0	近所づきあい 12.4	近所づきあい 10.9	近所づきあい 10.2	近所づきあい 8.5
道路や下水道の整備 10.1	道路や下水道の整備 9.7	道路や下水道の整備 10.2	道路や下水道の整備 9.7	道路や下水道の整備 7.1
教育・文化等公共施設 4.4	保健・医療体制 5.5	保健・医療体制 7.4	保健・医療体制 5.3	教育・文化等公共施設 5.7
福祉の充実 3.0	教育・文化等公共施設 4.4	教育・文化等公共施設 4.6	教育・文化等公共施設 5.1	保健・医療体制 5.2
保健・医療体制 2.7	福祉の充実 3.5	福祉の充実 2.7	福祉の充実 2.5	福祉の充実 4.3

(注) 表中の網かけの項目は、今回調査で最も回答の割合が高い項目を示す。

○住みにくい理由を過去の調査と比較すると、「道路や下水道などが整備されていない」、「買い物に不便である」、「通勤・通学に不便である」が平成27年度以降、上位3項目となっています。

○住みにくい理由の割合の変動を見ると、「保健・医療体制が不足している」が7.6ポイント（16.6%→9.0%）減少し、「教育・文化などの公共施設が整っていない」が4.1ポイント（10.2%→14.3%）増加しています。

■住みにくい理由－経年変化



■住みにくい理由－経年変化（割合の高い順）

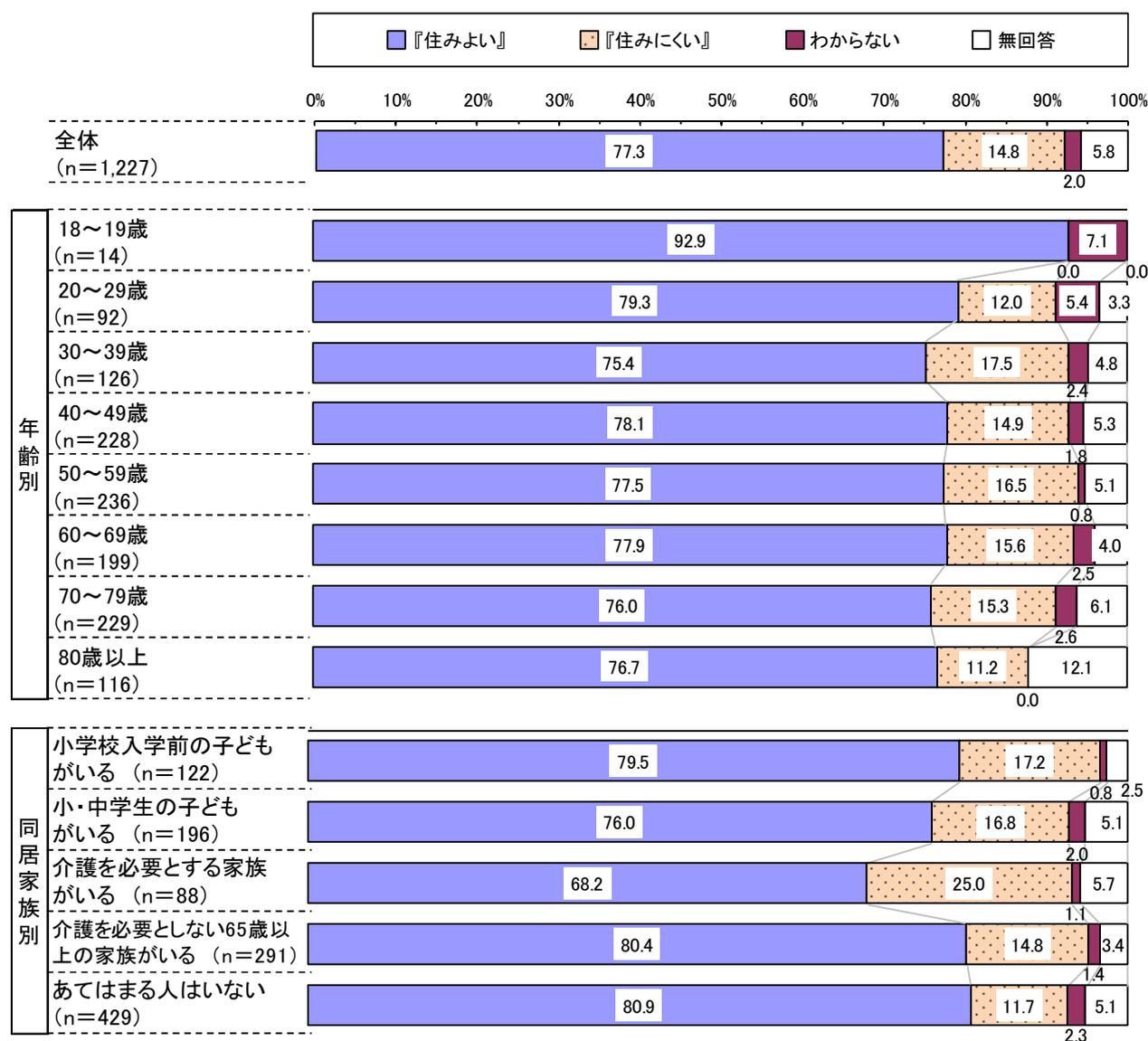
平成21年度 (n=430)	平成24年度 (n=290)	平成27年度 (n=225)	平成30年度 (n=205)	令和3年度 (n=189)
道路や下水道等 27.2	買い物に不便 37.9	道路や下水道等 26.2	買い物に不便 26.8	道路や下水道等 29.1
買い物に不便 27.0	道路や下水道等 32.1	買い物に不便 23.1	道路や下水道等 24.4	買い物に不便 28.6
保健・医療体制 21.6	保健・医療体制 20.0	通勤・通学に不便 20.9	通勤・通学に不便 24.4	通勤・通学に不便 19.0
緑や公園が少ない 13.7	緑や公園が少ない 17.6	まちに愛着がない 17.8	保健・医療体制 16.6	まちに愛着がない 16.4
福祉 13.0	通勤・通学に不便 15.5	緑や公園が少ない 17.8	まちに愛着がない 14.1	緑や公園が少ない 14.3
まちに愛着がない 12.6	まちに愛着がない 15.5	保健・医療体制 15.6	緑や公園が少ない 14.1	教育・文化等公共施設 14.3
教育・文化等公共施設 11.2	教育・文化等公共施設 15.5	福祉 11.1	教育・文化等公共施設 10.2	知人や親類がいない 9.5
通勤・通学に不便 10.2	福祉 12.1	教育・文化等公共施設 10.2	知人や親類がいない 7.3	保健・医療体制 9.0
知人や親類がいない 7.4	知人や親類がいない 10.0	知人や親類がいない 8.9	福祉 6.3	福祉 8.5
近所づきあいが悪い 5.6	近所づきあいが悪い 5.5	近所づきあいが悪い 4.4	近所づきあいが悪い 2.4	近所づきあいが悪い 4.2

(注) 表中の網かけの項目は、今回調査で最も回答の割合が高い項目を示しています。

○現在の住みごちを年齢別にみると、『住みよい』は[18～19歳]で92.9%となっており、20歳以上の全ての年代でも75.0%を超えています。

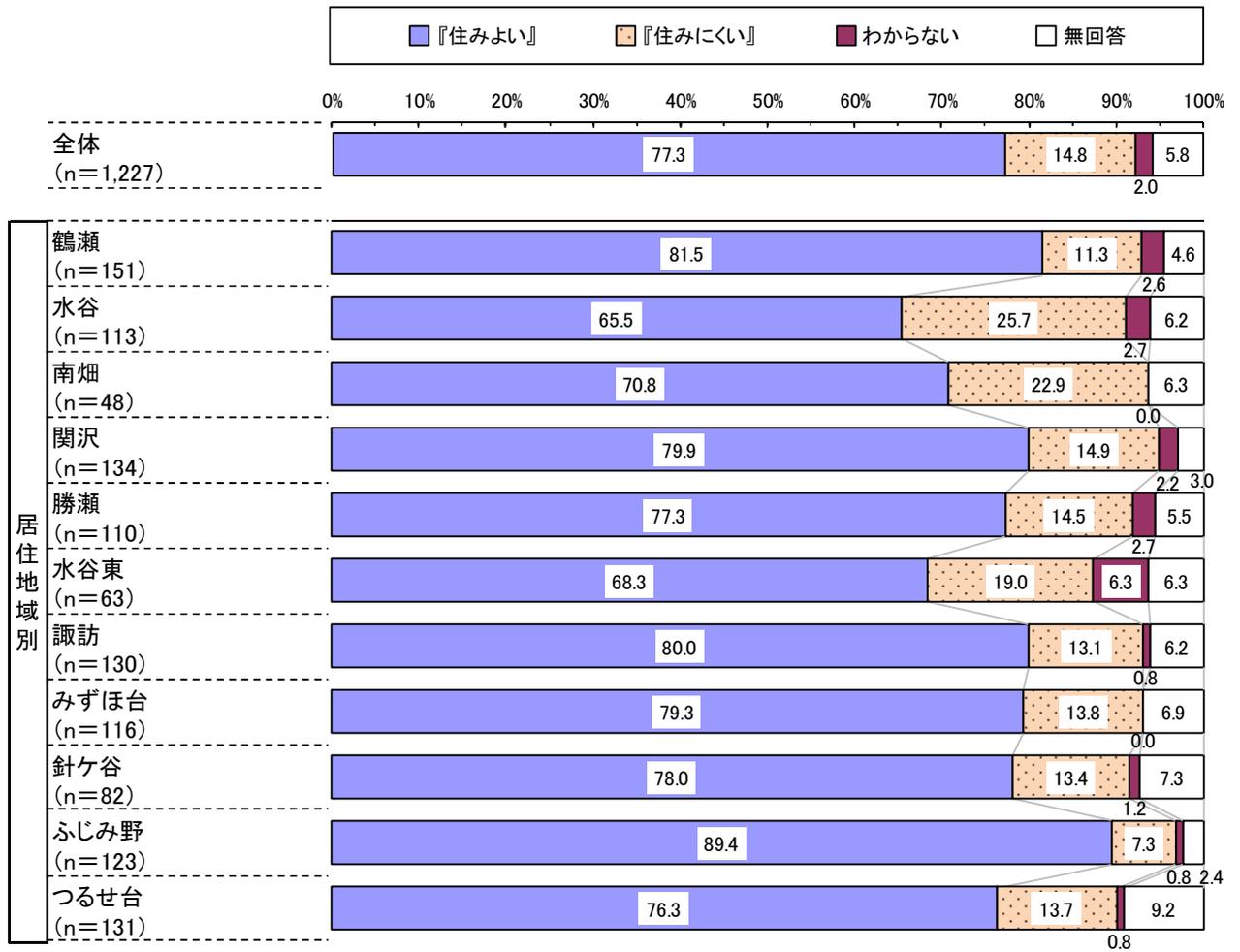
○同居家族別にみると、[介護を必要とする家族がいる]で『住みよい』は、68.2%と他より低く、『住みにくい』は、25.0%と他より高くなっています。それ以外の全ての形態では『住みよい』が75.0%を超えています。

■現在の住みごち一年齢別・同居家族別



○居住地域別にみると、『住みよい』は[ふじみ野] (89.4%)、[鶴瀬] (81.5%)、[諏訪] (80.0%)、[関沢] (79.9%) で高くなっています。  
 一方、『住みにくい』は[水谷] (25.7%)、[南畑] (22.9%)、[水谷東] (19.0%) で比較的高くなっています。

■現在の住みごころ—居住地域別



(2) 今後の定住意識 (問2)

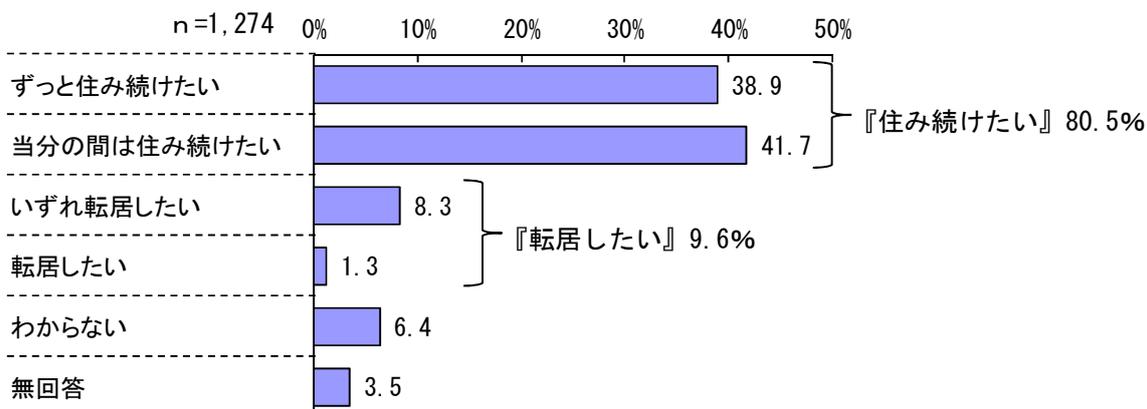
◇『住み続けたい』は80.5%となっています

○今後も富士見市に住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(38.9%)と「当分の間は住み続けたい」(41.7%)を合わせた『住み続けたい』は80.5%となっています。

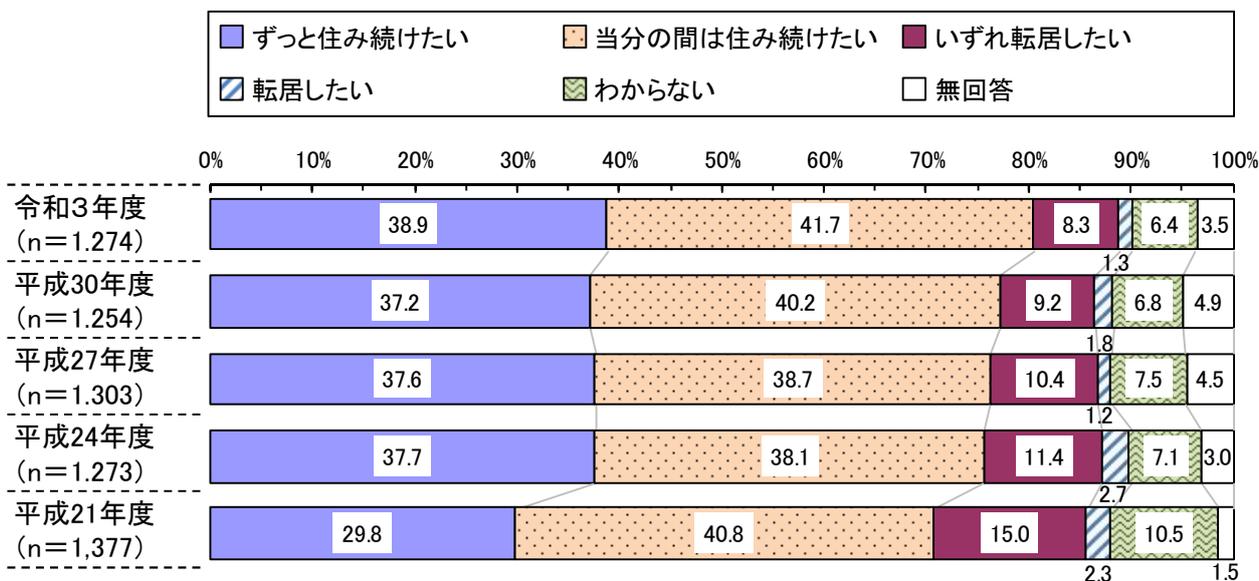
一方、「いずれ転居したい」(8.3%)と「転居したい」(1.3%)を合わせた『転居したい』は9.6%となっています。

○今後の定住意識を過去の調査と比較すると、『住み続けたい』は平成21年度以降増加傾向にあり、前回調査と比べると3.1ポイント増加しています。

■今後の定住意識

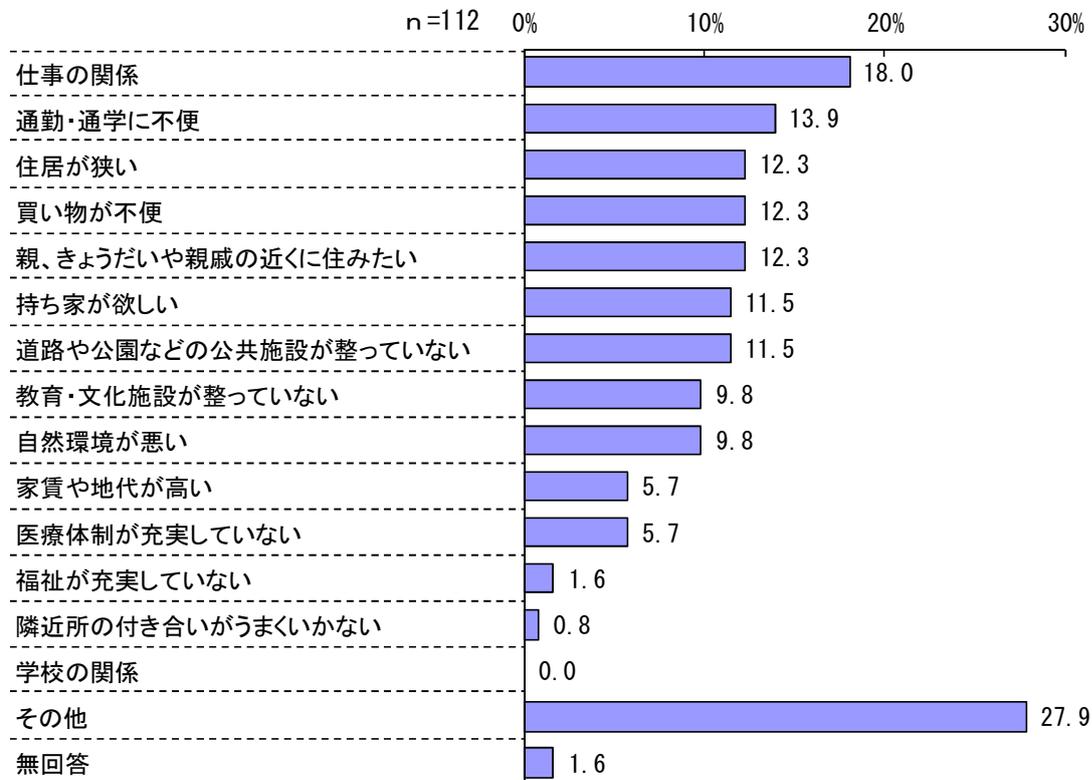


■今後の定住意識一経年変化



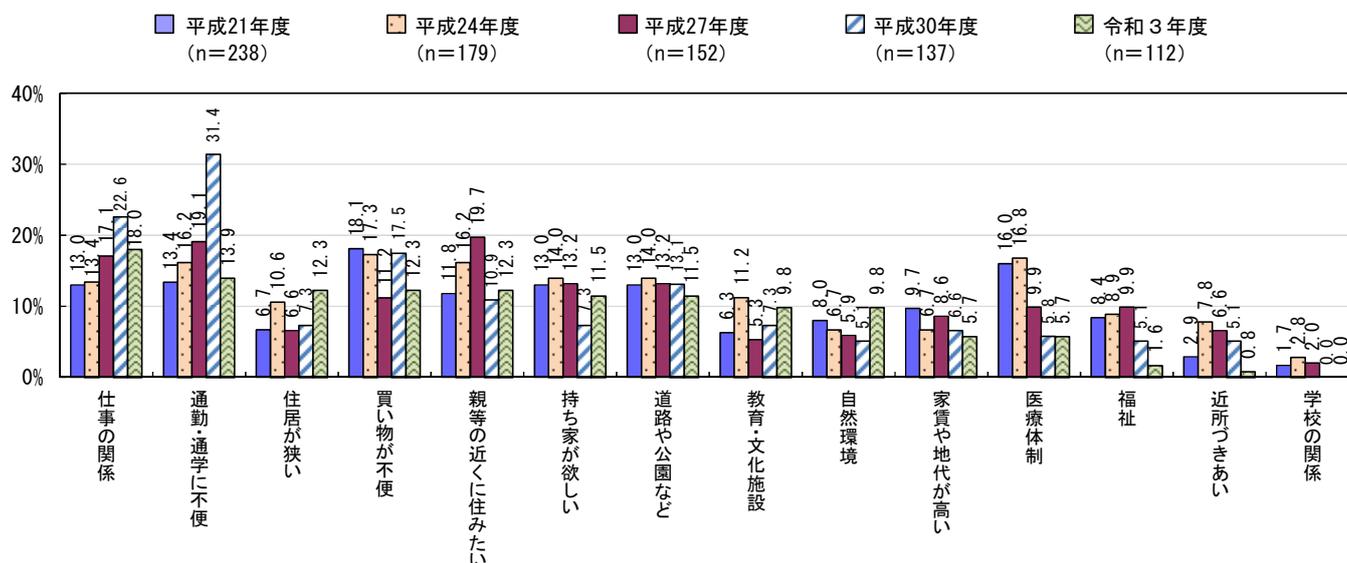
○『転居したい』と答えた理由を聞いたところ、「仕事の関係」が18.0%と最も高く、次いで「通勤・通学に不便」(13.9%)、「住居が狭い」、「買物が不便」、「親、きょうだいや親戚の近くに住みたい」(いずれも12.3%)の順となっています。

■ 転居したい理由 (2つまでの複数回答)



○転居したい理由を過去の調査と比較すると、「通勤・通学に不便」は、前回調査から17.5ポイント（31.4%→13.9%）の減少となっています。「仕事の関係」、「買い物が不便」は、継続して上位ではあるものの、その割合は前回調査より減少しています。また、転居したい理由の割合を見ると、回答が分散し、項目間の差が小さくなっています。

■ 転居したい理由一経年変化



■ 転居したい理由一経年変化（割合の高い順）

平成21年度 (n=238)	平成24年度 (n=179)	平成27年度 (n=152)	平成30年度 (n=137)	令和3年度 (n=112)
買い物が不便 18.1	買い物が不便 17.3	親等の近くに住みたい 19.7	通勤・通学に不便 31.4	仕事の関係 18.0
医療体制 16.0	医療体制 16.8	通勤・通学に不便 19.1	仕事の関係 22.6	通勤・通学に不便 13.9
通勤・通学に不便 13.4	通勤・通学に不便 16.2	仕事の関係 17.1	買い物が不便 17.5	住居が狭い 12.3
仕事の関係 13.0	親等の近くに住みたい 16.2	持ち家が欲しい 13.2	道路や公園など 13.1	買い物が不便 12.3
持ち家が欲しい 13.0	持ち家が欲しい 14.0	道路や公園など 13.2	親等の近くに住みたい 10.9	親等の近くに住みたい 12.3
道路や公園など 13.0	道路や公園など 14.0	買い物が不便 11.2	住居が狭い 7.3	持ち家が欲しい 11.5
親等の近くに住みたい 11.8	仕事の関係 13.4	医療体制 9.9	持ち家が欲しい 7.3	道路や公園など 11.5
家賃や地代が高い 9.7	教育・文化施設 11.2	福祉 9.9	教育・文化施設 7.3	教育・文化施設 9.8
福祉 8.4	住居が狭い 10.6	家賃や地代が高い 8.6	家賃や地代が高い 6.6	自然環境 9.8
自然環境 8.0	福祉 8.9	住居が狭い 6.6	医療体制 5.8	家賃や地代が高い 5.7
住居が狭い 6.7	近所づきあい 7.8	近所づきあい 6.6	自然環境 5.1	医療体制 5.7
教育・文化施設 6.3	自然環境 6.7	自然環境 5.9	福祉 5.1	福祉 1.6
近所づきあい 2.9	家賃や地代が高い 6.7	教育・文化施設 5.3	近所づきあい 5.1	近所づきあい 0.8
学校の関係 1.7	学校の関係 2.8	学校の関係 2.0	学校の関係 0.0	学校の関係 0.0

(注) 表中の網かけの項目は、今回調査で最も回答の割合が高い項目を示しています。

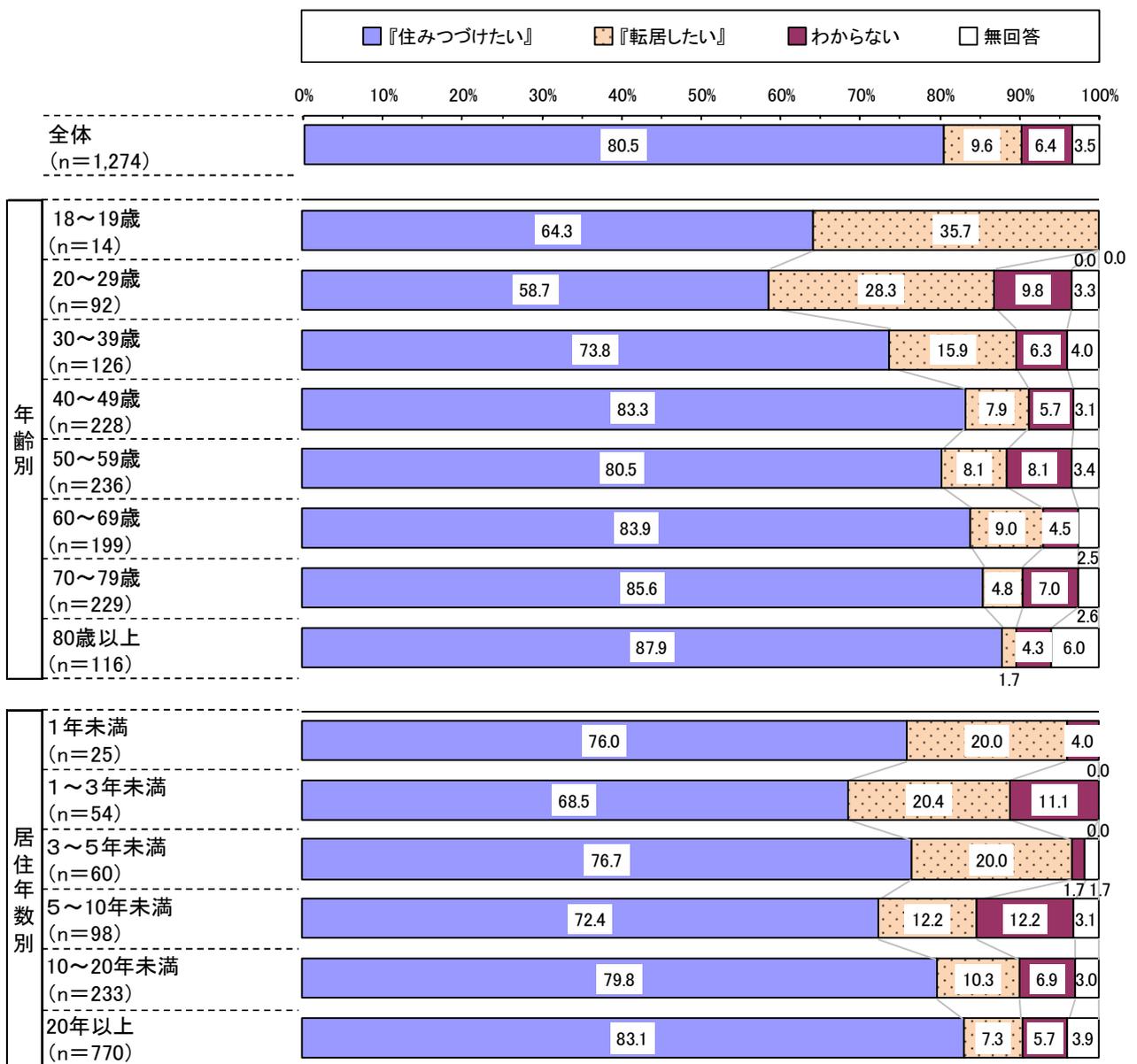
○今後の定住意識を年齢別にみると、『住み続けたい』は40歳以上のすべての年代で80.0%を超えています。

一方、『転居したい』は[18～19歳] (35.7%) と [20～29歳] (28.3%) の年代で高くなっています。

○居住年数別にみると、『住み続けたい』は[20年以上] (83.1%) で高くなっています。

一方、『転居したい』は[1年未満]、[1～3年未満]、[3～5年未満] の比較的短い居住年数で20.0%以上となっており、高くなっています。

■今後の定住意識一年齢別・居住年数別



○居住地域別にみると、『住み続けたい』は[関沢]が89.6%と最も高く、次いで[勝瀬] (87.3%)、  
[諏訪] (86.9%) となっています。

一方、『転居したい』は[針ヶ谷] (13.4%)、[水谷東] (12.7%)、[水谷] (12.4%)、の順とな  
っています。

■ ■ 今後の定住意識－居住地域別

